



高齢者見守りで市とセブン-イレブンが協定

セブン-イレブン・ジャパンと三好市が2月15日、高齢者が安心して地域で暮らす支えとなるよう「高齢者見守り活動に関する協定」を締結しました。協定では、市内6店舗で来店時などに高齢者の異変に気づいた場合、市に連絡・相談。状況に応じ消防や警察に通報し、高齢者の孤立など被害防止に努めます。締結後、高橋幸成ゾーンマネージャーからは「高齢者への支援など市民生活のバックアップをしていきたい」と話され、高齢者に優しいまちづくりの推進に向け、連携の強化が図られました。

池田小の児童が起業し、販売体験

キャリア教育の一環として、子どもたちの社会的職業的自立に向けた能力を育成しようと学習を進めてきた池田小学校6年の児童が2月24日、5つのグループに分かれて会社を設立し池田町銀座通りで野菜や小物など思い思いの物を販売しました。「ワイワイ株式会社」を設立した樽角竜二さんは、「寒い時期なので、温かいものが売れると思い、焼き芋やホットすだちジュースなどを販売した。思っていたより売れ行きがよくとてもうれしいが、焼き芋は焼くのに時間がかかるので苦労した」と課題も見せていました。



親子で楽しみながら小児医療の未来について考えよう

三好市の小児医療について考えてもらおうと2月25日、子育て講演会が三好市保健センターで行われました。徳島大学病院小児科教授の香美祥二先生による「かけがえのない子どもを育むための小児医療支援」を演題に特別講演や「小児医療～三好市の未来に向けて～」を討論テーマに徳島県立三好病院の住友院長や三好市在住のパパ・ママたちによるパネルディスカッションが行われました。また、子ども向けのさまざまなワークショップも行われ、手形で動物を描く手形アートやお雛様の練りきり体験などがあり、約150人の親子連れでにぎわいました。



おもしろいこと、珍しいもの、耳よりの情報など、どんなことでもいいのでお知らせください。
三好市役所 秘書人事課 ☎72-7646

三野防災公園で自転車大会



自転車を通じたスポーツ振興を図ろうと2月25日、阿波シクロクロス大会が三野健康防災公園で開催されました。大会は、四国シクロクロスシリーズの一環として実施され、三好市では初開催。コースは1周2.4キロで、砂地や段差のほか、障害物が設置され、参加者は自転車を担いだり、起伏の激しいコースに悪戦苦闘しながらも沿道の声援を受け必死に走り続けました。兵庫県から参加した三井由香さんは「コースは休みどころがなく大変でしたがアットホームな雰囲気を楽しめました」と話し笑顔を見せました。

地域で認知症患者を支えよう



認知症への理解を深め地域ぐるみで支える人材を育成しようと2月20日、認知症サポーター養成講座が池田総合体育館で行われました。講師を務めたみよし地域包括支援センターの三木淳司さんからは、対応の心得として「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」の3つの基本姿勢が大切と語られました。また、具体的な対応法として、「まずは見守る」「相手に視線を合わせてやさしい口調で」など7つのポイントが紹介されたほか、寸劇やグループワークも行われ、参加者は認知症への理解を深めました。

地域の食の魅力を伝えよう



食を通じて観光振興につなげていこうと2月8日、にし阿波観光地域づくりセミナーが池田総合体育館で行われました。講師を務めた株式会社自遊人の岩佐十良代表取締役からは、国内外の成功事例を交えながら食を切り口にした観光振興策を紹介。旅行動機の第1位が「おいしいものを求めて」という調査結果を挙げ、「食をテーマにプロモーションしている地域は少ない。スマートフォンをうまく活用しながら、一人一人に共感してもらえるような情報を発信していくことが大切」と参加者に呼びかけました。

日本酒ファンが新酒を堪能 四国酒まつり

新酒ができあがる時期にあわせて毎年開催されている「四国酒まつり」が2月24日に開かれ、全国から多くの来場者でにぎわいました。地酒試飲会場のサンライズビルには、四国から厳選された41銘柄のお酒が提供され、来場者はグラスを片手に各銘柄を飲み比べ味の違いを楽しみました。また、地元の今小町・三好菊・芳水の酒蔵も開放され、普段なかなか入ることのできない酒蔵内部を見学したり、蔵人しか味わえない搾りたての新酒の味を堪能しようと日本酒ファンの長蛇の列ができていました。



大切なあの人へ あわこいで本格ガトーショコラ作り

にし阿波の地域資源を生かした体験プログラムイベント「あわこい」が1月27日から3月4日まで2市2町で開催されました。三野町にあるカフェ&カルチャーレヨンでは2月14日、本命バレンタインケーキ作りの体験プログラムが行われました。参加者は、作るときのポイントなどを講師から教わりながら本格濃厚ガトーショコラ作りに挑戦。鳴門市から参加した森田紗代さんは、「自分ではなかなかケーキを作らないが、すごく簡単で楽しかった」と笑顔がこぼれていました。あわこい期間中、78プログラムが行われ、多くの人が多様なし阿波の魅力を満喫しました。